

新型コロナウイルス抗体検査キット Q&A

Q1 新型コロナウイルスの抗体検査とはどういった検査ですか？

A1 新型コロナウイルスの抗体検査とは、新型コロナウイルス感染症に対する抗体を持っているかを調べる検査です。抗体とは身体の中に侵入した細菌やウイルスと戦い、身体を守ってくれる物質で、人間の身体の中で作られます。

Q2 PCR 検査と抗体検査の違いは何ですか？

A2 「PCR 検査」とは、感染が疑われるときに体内に病原体（ウイルス）が存在しているかどうかを調べる検査で、「抗体検査」は身体に侵入したウイルスに対して、体内の免疫システムが産生するたんぱく質（抗体）の存在を検知する検査です。少量の血液で簡単に短時間で検査ができるというメリットがあります。

Q3 抗体検査の正確さはどの程度ありますか？

A3 抗体検査の正確さは、「感度」と「特異度」の2つの指標で評価されます。

感度：陽性の検体を正しく陽性と判定する確率です。100名の陽性者（感染者）がいる場合、100名すべてを「陽性」と判定できれば、感度は100%となります。

特異度：陰性の検体を正しく陰性と判定する確率です。感染していない人100名に対して、100名すべてを「陰性」と判定できれば、特異度は100%となります。

弊社、抗体検査キットの感度は96.7% 特異度は100%

Q4 IgM 抗体と IgG 抗体の違いは？

A4 一般的に IgM 抗体は感染初期に現れ、比較的早い段階で消失します。一方で IgG 抗体は比較的遅い段階で現れ、長期間残ると言われています。

IgM 抗体が陽性の場合：過去1週間以内に感染した可能性が高いと考えられます。

IgG 抗体が陽性の場合：過去数ヶ月以内に感染した可能性があり、抗体がすでに出来上がっている状態と考えられます。

IgM 抗体、IgG 抗体ともに陽性だった場合：現在進行形で感染している可能性が考えられます。

※IgG 抗体が陽性であったとしても完全に治癒していると判断できるものではなく、他の方へ感染させるリスクが消えていると断言はできません。

陰性であったとしても陽性であったとしても感染予防のために、外出はなるべく控えること。外出の際にはマスクを着用すること。三密（密集、密閉、密接）を避けること。手洗いや咳エチケット（咳やくしゃみをする際、マスクやハンカチ、手などで、口や鼻をおさえること）を心がけること。

Q5 使用期限はありますか？

A5 製造日より 24 カ月です。

Q6 抗体検査キットの保存方法を教えてください。

A6 4～30°Cの範囲で保管してください。高温多湿・直射日光を避けて保管ください。

Q7 付属部品の別売りはありますか？

A7 本体キットとセット販売となっております。付属品のみ販売は行っていません。

Q8 採血方法に関して注意することはありますか。

A8 被験者以外の他人が採血すると違法行為となります。環境や状況を満たしていない場合は、必ず被験者ご自身で採血してください。自己採血する場合は、穿刺箇所の消毒を十分に行い、穿刺を行ってください。穿刺器具による感染や汚染には十分に注意をしてください。

Q9 抗体検査は過去に罹ったかどうかの検査では？

A9 弊社、抗体検査キットでは感染初期（3日～8日後程度）に現れる「IgM抗体」と回復期（3週間～4週間後）に現れる「IgG抗体」を同時に検査することができます。

よって、IgM抗体が陽性の場合及びIgM・IgG抗体とも陽性だった場合は、現在進行形で感染している可能性が考えられます。

※IgG抗体が陽性であったとしても完全に治癒していると判断できるものではなく、他の方へ感染させるリスクが消えていると断言はできません。